

西沿岸赤鐵礦 三三〇 三一〇 三一〇 三八〇 四五〇 五二五〇
クリフランド 號 二一六〇 二二〇六 二二六 二二四〇 三七〇 三二七〇

鋼 鐵

レール 六一五〇 六一六 六五〇 六七六 八五〇 二〇〇
鉛板 八七六 六七六 六〇〇 五五〇 九二〇 一一七六
アングル 七一五〇 六〇〇 六〇〇 八〇〇 九〇〇 三〇六
ジョイスト 七二〇〇 六五〇 六五〇 七二〇〇 一〇〇〇 二二六
ガート 七二〇〇 六五〇 六五〇 七二〇〇 一〇〇〇 二二六

右表に依れば一九一五年の初めに至る迄一九一三年中頃の
高値には達せざりしを見るべし而して管理の第一歩は一九
一五年六月に初まり砲彈用鋼鐵の最高價格を協定する目的
を以て商議を爲すため鋼鐵製造者を召致せり、當時此種鋼
鐵は噸、拾七磅に達せしが協定に依り六吋までの砲彈用鋼
鐵に對しては噸、拾五磅と定め直徑の大なる砲彈に就ては
稍高き價格を定めたり。

如斯砲彈用鋼鐵の價格を定めたる結果は他の商業用鋼鐵
の製造の方比較的有利となるに至り爲めに砲彈用鋼鐵の生
産減退せんとする模様ありたり、されば政府が鋼鐵を必用
とする總ての軍需品に對し著しく増加せる價格を支拂ふを
意とせざる以上、商業用鋼鐵をも管理せざるべかざる事明
瞭となれり、一九一六年六月最高價格決定の問題を論ずる
ため召集せられたる會合に於て鋼鐵製造業者は銑鐵價格の
變化に伴ひ鋼鐵の價格を高低せしむるの方法を推舉したれ
ども軍需省は一定期間確定的價格を定むるの法を選び其期
間の終りに之を修正する事とし最後にヘマタイト銑鐵噸、

六磅貳志六片を基本として左の通り最高價格を協定せり。
(商業用鋼鐵の主要なるもののみを引用せるが他は之に準
ず可きものとす)

	磅 志 片
レール(六拾封度及び其以上)	一〇 一七六
船舶用 鋼板	一一 一〇〇
ボイラー、プレート	一二 一〇〇
ジョイスト	一一 二六
アングル	一一 二六

然れども鋼鐵の需要は遙に其供給を超過せるが故に任意
の協定に依る最高價格の決定は全然満足なるものに非ざる
を以て同業者は更に相談を重ねたる後鐵及び鋼鐵は國法の
保護の下に其價格を管理せらるる材料品表中に加へられた
り。

軍需省は砲彈用鋼銑の價格を引下げんと努めたること一
再ならず一九一七年七月再び其價格を一噸に就き貳磅引下
げざるべからざることを提議せり、商業用鋼鐵の最高價格
は殆ど利益の餘地なき事を認められたり、而も鋼鐵製造業
者の連合を組織し之に據て砲彈用鋼鐵製造業者が商業用鋼
鐵製造業者を補助せんとの提議は實行不可能なりとして拒
絶せられ其代りとして砲彈用鋼鐵の價格の引下げて參拾志
に止め商業用鋼鐵製造者に對し壹噸に就き拾志宛補助を爲
すべしとの提議考案せられしが其時に當り石炭管理者が石
炭坑夫に一日に壹志六片の賞與を與ふることとなり、爲に
石炭の價格壹噸に就き約貳志六片の騰貴を見るに至れる結

果鋼鐵製造費の計算の基礎全然覆されたり、最後に一九一七年十一月三十日左の協定成れり。

(1) 砲彈用鋼鐵の基本價格は之を變更せずして壹噸、拾五磅となす事、但し各製造者は壹噸に就き貳拾五志宛政府へ拂戻すべきこと、尙不良材料に對する準備費は壹割より五分に引下ぐるること。

(2) 商業用鋼鐵基本價格は之を變更せず、但し軍需省より直接支拂はるゝ補助金に依り各鋼鐵製造業は船舶、橋梁、タンク及びチエツカープレートに對して壹噸に就き貳拾志アングル、ジョイスト及びプレートに就ては拾五志宛補助せらるゝこと、他の種類の商業用鋼鐵は何等の變更なきこと。

右協定は茲に詳細之を引用せり、何となれば政府が鐵及び鋼鐵の最高價格を増加するか或は増進せる生産費に對し之等の製造者に補助金を給するか何れか一方を選ばざるべからざるに際し左記の理由により斷然後者を選びたり。

(1) 鐵及び鋼鐵の價格は幾何なりとも變化する時は直接或は間接之に賴れる幾多の軍需品製造に對する契約を錯亂すべく何にしても契約者及び準契約者が其増加せる價格に對し餘分の利益を獲得するを防ぐこと殆ど不可能にして殊に原價に或歩合を加へ之に基きて結ばれたる契約の場合に然りとす。

(2) 賃銀及び多くの場合に於ては、採掘權並びに鐵鑛も銑鐵及び鋼鐵の賣價に準じて高低せらるべきを以て價格の騰

貴は引いて賃銀の増加となり原價と價格とは互ひに相反響し合ひて上進するに至るべし。

(3) 原價に於ける増加額の大部分は政府の勞働者に對する報價の結果賃銀の率を引上げしめたるに依る、

(4) 政府自身が直接或は間接に生産されたる鐵及び鋼鐵總噸數の九割八分を購入せり。

補助金の支拂に賛せる議論の一つは賃銀は價格の高低に準ずるを以て最高價格が引上げらるれば從つて更に増加すべしと言ふにありたれども補助金の支給を勞働組合より秘せんとするの試ありしを聞かず、而して價格の高低に依り變更する賃銀表の爲殊更に賣價に補助金を含めるか或は之を控除するかの問題は他日の商議に延期することに協定せられたり、此補助金に關する協定を認めんとするに當り大藏省は聯合國へ請求すべき價格は英國政府に損失を與へざる様取極むべき旨訓令せり。賃銀に對し二回に亘り各壹割貳分五厘及七分五厘の報價をなしたる爲に増加したる生産費に對應せん爲一九一八年の初めプレートに對する補助金は壹噸に付き參拾志に、アングル及びジョイストは拾七志六片に各増加せられたり。

一九一八年六月復もや生産費に於て重大なる増加を見たるが其節は炭坑夫の賃銀甚しく増加し其結果石炭の管理價格壹噸に就き四志騰貴せり、此賃銀騰貴は更に擴大して炭坑夫のみならず鐵鑛夫、コークス窯の職工及び之に關聯

せる工業一般にも波及し再び補助金にも影響するに至れり。

故に一旦價格を制定し勞力、銑鐵、石炭其他何物たるを問はず之が價格増加のため生産費の騰貴するや必ず補助金に依りて之に對することゝし斯くて大砲、武器其他の軍用品の製造に供せらるゝ原料品の價格は不變となりぬ。

鋼鐵に對する價格の制定は之が生産に缺くべからざる總ての貨物の價格をも管理することを必要ならしめたるを以て政府は鐵礦（内國產及び外國產、但し外國產に付ては運賃の管理をも含む）コークス、銑鐵、屑鐵、フェロマンガニース、マグネチック、ブリック、ファイアブリック、シリカブリックに對する最高價格をも制定せり。

銑鐵及びコークスの場合に於ては最高價格を一、二回引上げたる後遂に補助金制に據るに至れり、補助金の高は製造者の異なるに従ひ一定せず、例へばコークスの場合に於ては偶原價と賣價との關係を調査せることあり、斯くて製造者が巨大なる利益を占め居ること發見せられたる節は補助金の高を原價の増加額より尠からしめ製造家が自ら給し得る増加の程度は之を彼等自身に負擔せしむる事とせり。

補助金の制度を採用せるがため一節約を爲し得たり、之最高價格引上の方法に依りしならば恐らく得ること能はざりしならん、即ち補助金制度によれば政府の補助は工場能率の優秀なるか或は平均率に達する場合は必要だけの額に

制限し其の上の額を支給するはたゞ特殊の狀況の下にありて普通價格と補助金とを以てしては到底收支相償はざる二、三の會社に限りたり若し最高價格引上の方法を採るに於ては生産に關係せる總ての工場に此大なる額を支給せざるべからざる次第なり。

十、管理令の撤廢及其後の價格

一九一八年十一月休戰條約の結ばるゝと共に諸工業をして出來得る限り迅速に平時狀態に復せしむるの策を採るの必要生ぜり、此の問題は休戰の暫らく以前任命せられたる特別委員により深く思考せられたり、而して補助金の性質として政府が鐵及び鋼鐵の全生産高を實際購入せる間のみ正常たるべきものなれば理論上よりすれば此の狀態の終熄と共に撤廢せらるべきは當然なり然れども、亦一方より考ふれば補助金を俄に撤廢するに於ては價格の暴騰を來し爲に鐵及び鋼鐵工場のみならず一般の機械工場及び之に關聯せる商業をも攪亂すべく迅速且つ圓滑に戰前の狀態に復せしむるの必要最も急なる時に當て之れあるは策の得たるものにあらず、更に此の補助金撤廢と其結果當然來るべき價格の騰貴とに反對せる他の議論は「價格の騰貴は引いて賃銀の増加を齎らし以て彼の價格の高低に進ずる賃銀表の結果一層價格の上騰を誘致するに至るべし」と云ふにあり。されば國內鐵及鋼鐵製造業者組合 (National Federation of Iron and Steel Manufacturers) と關係勞働組合の代表者と

が協議を重ねたる上補助金を二期に分ちて廢する旨決議せり。即ち一九一九年一月三十一日を以て鋼鐵製造業者に支給せる分を廢し、同年四月三十日に至り鑛石、コークス及び銑鐵に關する補助金を廢する事之れなり而して更に當時の最高價格表は之を一九一九年一月三十日迄有效ならしめ同日に於て補助金の撤廢を斟酌して新に最高價格を設定し四月三十日總ての補助金撤廢と共に鐵及び鋼鐵價格の管理を廢する事を決議せり。補助金を受けたる貨物の輸出を許可するは明かに政府の政策に反せるを以て各材料に對し出來得る限り眞に近き節約的價格を表せる輸出價格表發布せられたるが此の表中の價格は大體に於て國內の賣價に政府の支拂へる補助金の見積高を加へたるものに等しかりき。

補助金撤廢後來るべき市價の騰貴を豫想して補助金の恩恵に浴せる材料品の不當なる蓄積を防ぐ爲め軍需省は尙銑鐵の割當を管理し更に一九一九年四月三十日に於て何人とも鐵及鋼鐵を合せ若くは其の何れかを百噸以上所有する者は其の在庫高を一九一五年十月三十一日（管理令施行の日）或は一九一八年十月三十一日（敵對行爲終熄前の最後の月）現在の在庫高中の何れか多き方の分に比し之れに超過せる噸數に對して壹噸に就き三十志宛軍需省へ拂戻すべき事を規定せり。此拂戻金は大體に於て一九一九年四月に残存せる補助金の一噸に對する平均額を表はすものにして補助金を受けたる材料品の蓄積に對する豫防として施行せ

られたり、而してこれに依り軍需省は管理令及び補助金制を撤廢せる新時代迄持越されたる在庫品に對し、斯かる在庫が右令施行以前各製造家或は商人によりて所有せられたる量を超過せる程度内に於て其の支給せる補助を償はしめたるなり。

銑鐵の管理價格と輸出價格との差は一噸に付き平均二磅十志にして鋼鐵の場合は五磅なりき、故に此の勘定は大體各種の場合に於ける補助金額の平均を表はすものと見るべく同時に生産費の低下せざる限り此の制度の撤廢により國內に於ける價格の騰貴すべき率をも示す理なり、然るに其の後の實狀は生産費減少せざるのみか却て引續き増加せり各期に於ける市價はアイアン、アンド、コール、トレード、レビユーに依れば左の如し。

月末に於ける價格

管理價格 一九一九年 五月 同九月 同十二月 一九二〇年 一月 同二月

銑鐵

東沿岸ヘマト	六二六	九一〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一一〇〇	一一〇〇
西沿岸ヘマト	六七六	九〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一一〇〇	一一〇〇
タクリーアラン	四一五〇	八〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	八二五〇	八二五〇
ド、三號							

鋼鐵

船舶用板	二一〇〇	二一〇〇	二一〇〇	二一〇〇	二一〇〇	二一〇〇	二一〇〇
アンゲル	二二六	二二六	二二六	二二六	二二六	二二六	二二六
ジョイスト	二二六	二二六	二二六	二二六	二二六	二二六	二二六
ガート	二二六	二二六	二二六	二二六	二二六	二二六	二二六

最近クリープランド地方及びスコットランドより得たる
價格比較を示せば左の如し。

クリープランド(一九一九年七月一
十月及一九一一年同期間比較) スコットランド(一九一九年十
二月及一九一三年同月の比較)

ヘマタイト				ヘマタイト			
賣	價	買	價	賣	價	買	價
燃料	一三八	燃料	二〇〇	燃料	二〇〇	燃料	二〇〇
外國鑽石	一七〇	外國鑽石	二二五	外國鑽石	二二五	外國鑽石	二二五
實銀	二七五	實銀	二六二	實銀	二六二	實銀	二六二
第三號鑄鐵	一六四	第三號鑄鐵	二一九	第三號鑄鐵	二一九	第三號鑄鐵	二一九
鐵鑽石	一七三	鐵鑽石	一七〇	鐵鑽石	一七〇	鐵鑽石	一七〇
修繕料	二九二	修繕料	二二三	修繕料	二二三	修繕料	二二三
持費其他	三三三	持費其他	二六二	持費其他	二六二	持費其他	二六二

十一、鐵及鋼鐵工場に於ける勞力を兵役よ

り保護せること並に勞力及び賃銀

左に掲ぐる表はフラックス氏の厚意により之れを引用す
るの許可を得たるものにして鐵及び鋼鐵の本業に雇はれた
る人員の數字を示せるものなり、然れども此等の數字は戰
時中砲彈の製造に部分的に従事せる若干の會社をも含めた

一九一四年以降各期に於ける鐵及び鋼鐵事業に雇はれし人數

(總人數は熔鑄爐、鋼鐵製造、鐵及鋼鐵壓延工場、製鍊爐、管製造工場、鍛冶、鋳力及亜鉛鑄、シート製造に従事せる労働者を含む)

る爲多少誇張せられたり。一九一四年七月と一九一八年十
一月との間に於て總ての鐵及鋼鐵業に雇はれたる人員の數
は大約六萬六千五百人増加し、之れを割合より云へば二割
一步の増員なり、而して其内參萬六千人は女工なりき。熔
鑄爐労働者は三割の増加をなせるに鋳力工及び鐵工は却つ
て減少せり。各種工場より陸軍に召集せられし人員の最多
數は十萬八千人にして即ち戰爭突發の際雇はれ居たりし全
人員の三分の一に及びたり。一九一四年十二月迄に軍籍に
入りし者四萬九百人なりしが應募數の最大多數は一九一八
年の上半期にして當時は熔鑄爐及び鋼鐵工場の労働者を要
すること最も急なりしにも拘らず同年春期攻撃の災厄の結
果鐵及び鋼鐵業より一萬九千人を徵集するの已むなきに至
れり。一九一八年十一月には女工の數四萬二千五百人とな
り實に全被傭人數の一割一步に及び又一九二〇年一月迄に
八萬一千五百人即ち軍籍に入りし總労働者の七割六歩は軍
籍を離れて工業に復せり。

男子の部				男子の部			
被傭	徵集	軍隊より 歸還せる	被傭	徵集	軍隊より 歸還せる	被傭	徵集
人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員
一九一四年七月	三〇,〇〇〇	—	一九一四年七月	三〇,〇〇〇	—	一九一四年七月	三〇,〇〇〇
一九一四年十二月	三〇,〇〇〇	—	一九一四年十二月	三〇,〇〇〇	—	一九一四年十二月	三〇,〇〇〇
一九一四年七月	三〇,〇〇〇	—	一九一四年七月	三〇,〇〇〇	—	一九一四年七月	三〇,〇〇〇
一九一四年十二月	三〇,〇〇〇	—	一九一四年十二月	三〇,〇〇〇	—	一九一四年十二月	三〇,〇〇〇

鐵と鋼 第六年 第十二號

一〇八二

一九一五年七月	二九八〇〇	二九八〇〇	—	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	二〇二〇〇	二九八〇〇	不詳
一九一五年十二月	二九八〇〇	二九八〇〇	—	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	二〇二〇〇	二九八〇〇	不詳
一九一六年七月	三〇一〇〇〇	三〇一〇〇〇	—	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	二〇二〇〇	二九八〇〇	不詳
一九一七年一月	三〇一〇〇〇	三〇一〇〇〇	—	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	二〇二〇〇	二九八〇〇	不詳
一九一七年七月	三〇一〇〇〇	三〇一〇〇〇	—	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	二〇二〇〇	二九八〇〇	不詳
一九一八年一月	三〇一〇〇〇	三〇一〇〇〇	—	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	二〇二〇〇	二九八〇〇	不詳
一九一八年七月	三〇一〇〇〇	三〇一〇〇〇	—	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	二〇二〇〇	二九八〇〇	不詳
一九一八年十一月	三〇一〇〇〇	三〇一〇〇〇	—	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	二〇二〇〇	二九八〇〇	不詳
一九一九年一月	三〇一〇〇〇	三〇一〇〇〇	—	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	二〇二〇〇	二九八〇〇	不詳
一九一九年七月	三〇一〇〇〇	三〇一〇〇〇	—	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	二〇二〇〇	二九八〇〇	不詳
一九一九年十月	三〇一〇〇〇	三〇一〇〇〇	—	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	二〇二〇〇	二九八〇〇	不詳
一九二〇年一月	三〇一〇〇〇	三〇一〇〇〇	—	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	二〇二〇〇	二九八〇〇	不詳

* 一九一七年七月以降に於ける減少は一會社に關せるものにして之を以て同業全體の現象と見る能はず。

女子の部

總人員

上記總人員の一部
 熔鑄爐 鑄鐵所 鋳力工場

一九一四年七月	六、八〇〇	一〇〇	一、二〇〇	三、七〇〇
一九一四年十二月	不詳	—	—	—
一九一五年七月	七、九〇〇	—	—	四、一〇〇
一九一五年十二月	九、六〇〇	—	—	四、四〇〇
一九一六年七月	一二、六〇〇	六〇〇	二、二〇〇	四、六〇〇
一九一七年一月	一九、五〇〇	九〇〇	二、九〇〇	三、九〇〇
一九一七年七月	二三、九〇〇	一、九〇〇	四、二〇〇	三、二〇〇
一九一八年一月	三一、六〇〇	三、八〇〇	五、二〇〇	三、三〇〇
一九一八年七月	四〇、八〇〇	四、五〇〇	八、五〇〇	三、七〇〇
一九一八年十一月	四二、五〇〇	五、四〇〇	七、九〇〇	三、七〇〇
一九一九年一月	二六、二〇〇	三、六〇〇	四、六〇〇	四、二〇〇
一九一九年七月	一六、二〇〇	二、二〇〇	三、一〇〇	四、四〇〇
一九一九年十月	一四、三〇〇	一、九〇〇	二、九〇〇	四、五〇〇
一九二〇年一月	一三、六〇〇	一、九〇〇	二、五〇〇	四、六〇〇

アレン氏の指摘せる如く鐵及び鋼鐵業に雇はれたる人員

の大部は勞働者、煉瓦工、鍛冶工及び維持職工を除きては總て賃銀表協定の支配を受けざりしを以て最高價格の制定せられし迄は戰時需要の増加により價格の騰貴せるに連れ其の賃銀も亦増加せり、價格の制定せられたる後は彼の補助金制度賛成論者が論ぜる如く賃銀は暫く變化を見ざりき。然れども多くの場合に於ては補助金も一種の賣價増加と認められ爲に賃銀にも影響を來すに至れり。生産委員よりの報價の結果鐵及び鋼鐵業に於ける或一部の職工も亦戰時賞與を得たり。技術鑄造、造船業者に壹割貳分五厘の賞與を支給するや鐵及び鋼鐵職工代表者は直ちに同等の増加を要求せり。彼等は確言して曰く不熟練職工は戰時賞與の全額を受け居るが故に多くの場合にありては熟練職工は彼等に比し、不満足なる地位にありと。而して此の要求は左

の如く處理せられたり。

一週の賃銀の増加貳拾志以内なりし職工は其の所得に對し壹割貳歩の増加を受くべし、但し戰時の増加貳拾志を超過せる者は其の超過額を壹割貳歩の増加額より差引く事、右決定の日以後に於て價格の騰貴に伴ふ賃銀の増加を見たる時は其の増加額より差引くべし。

一九一八年二月初め軍需省と雇主及び職工の代表者との會議に於て更に一の協定なれり曰く一九一七年十月、石炭管理官の報償以來製造業者に支給せる補助金は賣價の騰貴と見做さるべきを以て之れに準じ賃銀をも増加すべしと、又曰く一九一七年三月以來生活費の騰貴に應ぜんが爲め支給せられし總ての戰時給與は前項による賃銀の増加額より差引くべしと。

戰時中の鐵及び鋼鐵工業に従事せる職工の平均賃銀に關しては未だ正確なる計算の據るべきものなし。パウレー博士が其の著「工業の生産區分」(The Division of Product of Industry)中に引用せる賃銀表に據れば一九〇六年に於ては鐵及び鋼鐵生産に満足に従事せる者の所得は八拾壹磅と見積られたり、昨年(一九一九年)十二月内國鐵及び鋼鐵製造業者組合により與へられたる報告によれば約壹萬人を雇へる會社の鐵及び鋼鐵職工に支拂へる平均壹週間の賃銀は四磅五志五片に達せり。

十二、鐵及び鋼鐵工業財政

拔 萃 大戰中に於ける鐵及び鋼鐵業

鐵及び鋼鐵工業會社の大部分は民間の株式會社なるが爲め其決算表を得ること容易ならず、さればエュノミスト誌上に定期發表せられたる拾四個の會社の決算表を摘要して左に掲ぐる事とせり。之等の會社は一九一八年には公稱資本金總額壹千六百七拾八萬七千磅を有し其中壹千參百貳拾四萬壹千磅は拂込済なりき、左表は一九〇六年—八年、一九一一年—一三年、一九一六年—一八年の各年間に於ける決算表の數種の條項を摘要せるものなり。公稱資本は一九〇六年より一九一八年迄の間に四百六拾五萬磅募集資本は貳百五拾萬七千磅の増加を爲せしに社債は一九一一年以來減退して僅かに五拾貳萬五千磅増加せるのみ。積立金の額は四百五拾壹萬九千磅の増加を爲して總計五百七拾七萬六千磅となり一九一八年迄の積立金は殆んど拂込資本の半に達せり。

資産の額は何れも確に少く評價せられたり、何となれば戰時中工場の改良擴張及び其價値の増加を以てしても資産は參割の増加を爲したるに過ぎざればなり。

一九一八年度に於ける純益金は一九一六年度に比し辛うじて其倍額に達し一九一三年度に比すれば僅に三割の増加に過ぎず、故に平均利率は資本の増加を酌量する時は一九一八年に於て一九一三年に比し些少なる増加を見たるのみ。(壹割八厘に對し壹割壹分貳厘)然れども純益金の積立金に割込まれたる割合に於ては可成著しき増加を見たり、

即ち一九〇六年には四割五分なりしものが、一九一八年には五割五分其前年(一九一七年)には殆ど五割八分なりき、積立金(消却金を含む)に割込まれし實際高は一九〇六年

の六拾四萬參千磅より一九一八年には壹百六拾貳萬壹千磅に増加し實に當時の拂込資本に比し壹割貳分貳厘に該當せり。其の財政狀態左の如し。(單位壹千磅)

項 目	年次			年次			年次			年次		
	一九〇六	一九〇七	一九〇八	一九一〇	一九一一	一九一二	一九一三	一九一六	一九一七	一九一八	一九一九	
募集資本												
優先株資本	二、八九一	二、八九一	二、八九一	二、八九一	三、一九一	三、一九一	三、一九一	三、一九一	三、一九一	三、一九一	三、一九一	
一般募集資本	七、八四三	七、九七二	七、九七二	八、〇〇七	八、〇〇一	八、〇〇一	八、〇〇一	八、〇〇一	八、〇〇一	八、〇〇一	八、〇〇一	
社債	二、九八五	三、四二二	三、五八三	四、〇〇八	三、九六二	三、九六二	三、九六二	三、九六二	三、九六二	三、九六二	三、九六二	
立債	一、二五七	一、四九五	一、六四七	二、〇八三	二、二七三	二、二七三	二、二七三	二、二七三	二、二七三	二、二七三	二、二七三	
金債	二、三九三	二、三三三	一、八〇八	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	
資産	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	
在庫	二、五二六	二、七二二	二、四四五	三、四九二	三、三九一	三、三九一	三、三九一	三、三九一	三、三九一	三、三九一	三、三九一	
品産	一、九二四	二、二〇六	一、七〇八	一、九四五	二、五五五	二、五五五	二、五五五	二、五五五	二、五五五	二、五五五	二、五五五	
債務	九八三	一、〇一六	一、三〇四	一、〇七六	九八五	九八五	九八五	九八五	九八五	九八五	九八五	
投資	七〇八	八八一	六三三	四四六	六〇七	八七九	二、二二五	二、六六七	三、〇〇五	二、九四一	二、九四一	
現金	一、四三九	一、七〇二	一、二六五	一、三九八	一、四四一	一、四四一	一、四四一	一、四四一	一、四四一	一、四四一	一、四四一	
純益金(社債の利子支拂後に於けるもの)	六四三	七六六	四八七	六二二	六九〇	一、一八六	一、五三三	一、七三三	一、六三三	一、六三三	一、六三三	
償却金及積立金(繰越金を含む)												
配當金												
特別配當金	一七一	一七一	一五四	一六九	一七七	一八八	二九二	一九七	一九三	一九三	一九三	
普通配當金	六二五	七五五	五三四	五二七	五七四	八六九	九四三	一、〇三三	一、一二七	一、一二七	一、一二七	
普通配當金百分率	七・八	九・五	六・六	六・四	七・一	一〇・八	一〇・九	一一・八	一一・二	一一・二	一一・二	
純益の百分率												
特別配當	三・〇	一〇・〇	一三・三	一三・〇	二・三	八・八	七・二	六・六	六・六	六・六	六・六	
普通配當	四三・〇	四四・四	四三・〇	三九・九	三八・八	三八・六	三五・三	三三・七	三三・三	三三・三	三三・三	
積立金	四三・〇	四三・六	四一・八	四三・一	四三・九	五三・六	五七・三	五七・七	五三・一	五三・一	五三・一	

(2) 佛 蘭 西

la Nation)及び銑鐵委員(Comité des Forges)により發

(2) 佛 蘭 西

本章に述ぶる所は主としてビノー氏の著「佛蘭西國內用銑鐵委員(Le Comité des Forges de France au Service de

la Nation)及び銑鐵委員(Comité des Forges)により發行せられたる最近の報告書より引用せるものにして噸數は凡て壹千キログラム壹噸とす。佛國に於ても英國に於けると

同じく一九一三年は鐵及び鋼鐵の最大生産を見た年の年なり。即ち銑鐵の生産五百貳拾萬七千佛噸に達しクルード、スチール(粗製鋼鐵)は四百六拾八萬七千噸に及びぬ、同年以前の生産状態を見るに銑鐵は一八九二年に於ける貳百五萬七千噸より一九一〇年には四百參萬八千噸に、鋼鐵は一八九二年の壹百六拾萬噸より一九一〇年には參百四拾壹萬參千噸に達せり、斯の如く佛蘭西は世界に於ける鋼鐵生産國として第四位を占め、米國、英國及び獨逸に及ばざりしのみ。英國に於て見しと同じく生産高は一九一四年初めには漸く減少し同年上半期の銑鐵生産高は貳百四拾四萬九千噸、鋼鐵は貳百貳拾九萬八千五百噸に過ぎざりき。次で同年八月四日に一般令發布せられ貳拾種以上の諸階級よりの人員軍籍に召集せられし爲に工業の活動甚だしく阻止せられたり、工場は一舉に其の人員の六割七歩を失ひ、重役、技師、支配人より職工に至る迄去りて軍籍に入り之が管理並に職工の秩序全く紊亂せり。玆に至り動員に關係なかりし老職工を以て工場の改造をなすの必要を生ずるに至りしが然も戦争の中心を去る遙か僻遠の地方にありてすら幾多の熔鑛爐、鋼鐵工場及び壓延工場が人員と材料との不足の爲仕事を中止するの已むなきに至れり、加ふるに一九一四年秋期に於ける戦争の結果、北部及東部に於ける工業地帯は悉く敵國の占領する處となりしのみならず其後の四ケ年間は之を敵の掌中に委する事となりぬ。左に掲ぐる表

拔 萃 大戰中に於ける鐵及び鋼鐵業

は之等侵略地帯に於ける一九一三年の生産を示せり。

一九一三年總生産高 噸數 百分率 噸數 百分率 噸數 百分率
 侵略地帯に於ける工場の生産高 一〇〇,〇〇〇 一〇〇 四六,七〇〇 一〇〇 三二,〇〇〇 一〇〇
 其他の平穩地帯に於ける工場の生産高 一八,一〇〇 一八 二,九〇〇 二 一,六五〇 五
 軍事上の成行より軍需品の在庫を改造増加するの必要迫るや石炭鐵及び鋼鐵に關聯せる熟練職工の一部歸還を許し一九一五年七月には貳拾基の熔鑛爐吹入せられ、同年下半期中には他の貳拾基の火入れをなし更に拾基は火入れの準備成れり。鋼鐵製造も同様の活動をなし一九一六年一月には九拾七基の酸性爐運轉せられ拾五乃至貳拾基は作業の準備成り新に參拾五基の爐は建造中なりき。斯て生産高は過去數年間種々の理由の爲め運轉を怠りし熔鑛爐を運轉せる爲に増加したるのみならず必要上新たなる生産方法をも創設し戦時中に完結せられ且つ對敵行動停止の際建造中なりし新しき熔鑛爐を加ふれば正に五拾九萬噸の製造力の増加なりき。

鋼鐵に關しては、戦時中建造して運轉開始せるもの或は戦争終結の節建造中なりし爐の數並に平穩地帯にありし爐に對する増加の百分率を左表に示せり。

酸性爐	轉爐	坩堝	電氣爐
噸數	噸數	噸數	噸數
一〇九	五六	一,二八〇	一八
增加百分率			
九四	一一四	一四六	七五

右爐の取換に當てられたる新しき設備を除き右表中に掲げたる爐は正に壹百七拾六萬噸の製造力の増加を表はすものなり。既に述べたる處により佛蘭西に於ける製造力は一九一三年の標準によれば銑鐵壹百八拾七萬壹千噸、鋼鐵壹百九拾六萬八千噸なること及び是等の製造能力が右表に示せる如く増加せる事明かとなり。然れども實際の生産高は之れに比し遙かに減退し、一九一七年十月に於ける最大生産高に就て見るも銑鐵は壹ヶ年壹百八拾壹萬參千噸、鋼鐵貳百參拾九萬八千噸の割合に過ぎず。左表は此の生産高の變化を示せり。

生 産 噸 數	銑 鐵		鋼 鐵	
	噸	數	噸	數
一九一六年一月	九〇、一四〇	一三六、〇八三		
同 四月	一〇八、四一四	一五一、四三二		
同 七月	一三〇、三四七	一六〇、二一九		
同 十月	一四三、八五三	一七〇、二九七		
一九一七年一月	一四四、八三一	一九九、六一五		
同 四月	一三九、九六七	一七八、六四四		
同 七月	一四九、三五四	一九〇、一六〇		
同 十月	一五一、一〇二	一九九、七九四		
一九一八年一月	一一一、七九一	一六六、〇七六		
同 四月	九一、五三八	一四八、五〇九		
同 七月	一〇七、五一〇	一五六、二一二		
同 十月	一〇二、二三一	一五〇、五七六		

銑 鐵		鋼 鐵	
鑄鐵及特別鑄鐵	九三、六六二	五三、二五〇	
鍛 鐵	三三、三〇〇	二六、八〇〇	
ベセマー銑鐵	二四、九六六	一九、六六六	

實際生産高と豫想生産高との比左の如し。

銑鐵(百分率)		鋼鐵(百分率)	
一九一六年	一〇〇	九四	
一九一七年	七二	七四	
一九一八年	五六	五九	

右の如き結果を來せる理由は勿論人員及び燃料の不足と鐵道運輸の混雜とによれり。戦争より歸還せしめたる人員は素より最も必要缺くべからざるものみに堅く制限し一般雇傭人は之を俘虜若くは外國及び殖民地の職工とを以て補ひたるが數の上よりするも質より見るも到底鋼鐵工場に要求に應ずる事能はざりき。北方及びバド、カレー地方の石炭區域が敵の占領する所となり、且つ潜航艇の脅威により英國より輸入阻止せられたる爲にコークスの不足甚だしく一九一七年秋期の調査の際は燃料不足の爲拾六基の熔鑛爐は空しく其の操業を休止せる事實發見せられたり。鑛石、石炭、耐火物其他斯の如き重量材料品を要する工業に於ては運輸機關の重大なる關係を有する事論を俟たず從て軍隊輸送より生ずる運輸機關の混雜は當然此の工業に對して大影響を及ぼせり。

一九一三年以降に於ける銑鐵生産高を其品質により分類せる結果は左の如し。

銑 鐵		鋼 鐵	
一九一五年	一七、四六七	三、五〇三	
一九一六年	一七、四六七	三、五〇三	
一九一七年	一七、四六七	三、五〇三	
一九一八年	一七、四六七	三、五〇三	

ベーシック銑鐵	三、五〇八、八七三	一、七〇三、三六六	六、六〇七、二四〇
其他品質	八、八四八	六、六五四	四、八三三
合計	三、五一七、七二一	二、六六八、〇一〇	六、一八五、七三一

一九一三年全生産高の三分の二に及べるベーシック銑鐵の生産は一九一八年には貳割八歩に達せるに過ぎず、他方に於て鑄鐵及び鍛鐵の生産は非常なる増加を見たり。これ一方に於てはマルテ、モゼールに於ける重要ベーシック工場場の破壊と他方に於て戦争の需要による生産の變化に基因するものなり、即ち佛蘭西は特別の鑄鐵砲彈を使用せると同時に鋼鐵砲彈に對して米國に頼れる事の大なりしは世人の記憶する處なり。左表は戰時中に於ける生産の地理的分布を示すものなり。

	東部	北部	中央部	南西部	西東部	西部	總生産高
一九一三年	三、五〇八、八七三	一、七〇三、三六六	六、六〇七、二四〇	四、八三三	六、一八五、七三一	三、五一七、七二一	三、五一七、七二一
一九一四年	三、五〇八、八七三	一、七〇三、三六六	六、六〇七、二四〇	四、八三三	六、一八五、七三一	三、五一七、七二一	三、五一七、七二一
一九一五年	三、五〇八、八七三	一、七〇三、三六六	六、六〇七、二四〇	四、八三三	六、一八五、七三一	三、五一七、七二一	三、五一七、七二一
一九一六年	三、五〇八、八七三	一、七〇三、三六六	六、六〇七、二四〇	四、八三三	六、一八五、七三一	三、五一七、七二一	三、五一七、七二一
一九一七年	三、五〇八、八七三	一、七〇三、三六六	六、六〇七、二四〇	四、八三三	六、一八五、七三一	三、五一七、七二一	三、五一七、七二一
一九一八年	三、五〇八、八七三	一、七〇三、三六六	六、六〇七、二四〇	四、八三三	六、一八五、七三一	三、五一七、七二一	三、五一七、七二一

此等の數字は北部及東部の工業地帯の大部分を占領せられたる爲佛蘭西生産高の對照に莫大なる變化を及ぼせる事實を明示す。

北部に於ける生産高は一九一六年及び一九一七年に於ては一九一三年の生産高の三分の一に過ぎず東部生産高に對する割合は六割八歩より貳割に減退せり。

抜 萃 大戰中に於ける鐵及び鋼鐵業

戦争開始當時佛蘭西の所有せる百七拾基の熔鑛爐の内半數以上(北部にて拾貳基東部にて四拾七基)は戰時を通じて侵略地帯に存せり而して之等の熔鑛爐は大部分最近の建造にして従つて他のものに比し其の生産能力も遙かに優れ前述の如く全國の生産能力の六割四歩を占めたり、左表は吹入せられたる熔鑛爐の數の變化を示すものなり。

吹入中のもの	吹入中止のもの	合計	吹入をなせる爐の毎月生産高
一九一四年一月	一三一	三九	一七〇
一九一五年七月	二〇	六一	四六、〇〇〇
一九一六年一月	四〇	四一	八一
一九一六年七月	四六	三八	八四、〇〇〇
一九一七年一月	五三	二九	一二五、〇〇〇
一九一七年七月	五六	三〇	一六〇、〇〇〇
一九一八年一月	五六	二六	一三一、〇〇〇
一九一八年七月	五五	三二	一〇二、〇〇〇
一九一九年一月	五九	三〇	八八、〇〇〇

一九一四年の初めに於て拾貳基の熔鑛爐建造中なり、國內の生産に加ふるに佛蘭西は左の如く銑鐵を外國より輸入せり。

輸入噸數	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
二、鋼鐵	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、五〇〇	二、二〇〇	六、六〇〇	三、三〇〇

一九一三年以降の鋼鐵の生産高は左表の如し。

東部 北部 中央部 西南部 西東部 西部 總生産高
 一九三二年 一五八、六三〇 一六五、八八八 五七、九三三 一九、九四四 二〇、三三六 一八四、四四四 四六六、八六六
 一九三三年 一六四、七三六 五七、二三四 二四、一〇四 八、〇〇〇 五五、三七七 八五、三三六 二二八、〇三六
 一九三四年 上牛期 四六、一四六 一七、一三二 一九、九六六 三、一二三 二九、五五六 三八、四八八 五七、三三五
 下牛期 七、一九五 四九、一七八 五、〇八一 二九、三八一 二五、九四九 一四、六六九 一〇、七五〇
 一九三五年 七、一九五 四九、一七八 五、〇八一 二九、三八一 二五、九四九 一四、六六九 一〇、七五〇
 一九三六年 三五、四八九 二四、七八五 七、三三九 三〇、七四七 一七、四六三 二〇、七六九 一九、五二八
 一九三七年 三六、〇六〇 二五、八五七 九、九七一 三三、五〇九 一七、六〇六 二二、三五〇 二二、三三六
 一九三八年 二五、〇七二 一〇、六一一 八、四〇一 一〇、七〇一 一三、〇三二 二七、六三三 一八、七九三

東部の生産は八割乃至九割北部にありては八割乃至八割五歩減退せり、一九一四年には佛蘭西は平爐百六拾四基、轉爐百基、電氣爐貳拾四基、坩堝百貳拾五基を有したり戰爭中を通じて北部及び東部の地方を占領せられたる爲佛蘭西は四拾八基の平爐と五拾參基の轉爐及び參拾八基の坩堝とを失ひ、粗製鋼鐵の生産高前述の如く五割八歩方減少せり。

各時期に於ける操業中及休止中の爐數左の如し。

	轉爐		平爐		坩堝		電氣爐	
	操業中	休止中	操業中	休止中	操業中	休止中	操業中	休止中
一九三四年九月	—	四七	—	二六	—	一三	—	三
一九三六年一月	三三	五三	九七	二四	一三七	八八	一三五	九四
一九三六年七月	一八	五三	一〇三	二七	一三六	一〇八	一三四	七六
一九三七年一月	三二	五八	一一一	二六	一四〇	一三六	一四〇	一三五
一九三七年七月	三七	七四	一〇四	四六	一三六	一〇一	一五九	一七
一九三八年一月	一〇	七五	九八	一六	一四三	三五	一七六	一六
一九三八年七月	四六	九〇	九八	一三七	一四四	七四	一〇〇	一七
一九三九年一月	四六	九五	九五	一〇八	一四四	九六	一四四	一五

右表中數字の示す如く利用し得べき爐數は絶えず増加せ

り、而し生産高の之に伴はざる理由は既に之を述べたり。一九一八年末に於ては鋼鐵工場に於て建造中なりしもの轉爐八基、平爐四拾壹基、坩堝四百拾七基、電氣爐拾壹基に及べり之れ等を現存せる爐に加ふる時は佛蘭西は現時に於て轉爐百〇參基、平爐貳百貳拾五基、坩堝貳千四百九拾七基、電氣爐四拾貳基を有すべき筈なり。

三、戦後の地位

ローレン州を取戻せる結果佛蘭西に更に左の生産能力を有するに至れり。

	百萬噸單位の生産高			
	石炭	鑛石	銑鐵	鋼鐵
佛蘭西一九一九年	四〇	二二	五、二	四、七
佛蘭西及びアルサス、ローレン	四四	四三	九、一	七、〇
佛蘭西アルサス、ローレン及びザール	五七	四三	一〇、五	九、〇
				二二

右に就きて見るに佛蘭西の生産能力は殆ど倍加せしも石炭の不足は舊の如し、且つ生産は勞力、燃料の不足及び鐵道運輸の混亂の爲甚だしく阻害せらる、アルサス、ローレンに於ける改造委員長ホーセル大佐はストラッスブルグよりレトトン氏に寄書して曰く「吾等は此地に於て恐るべき時期を過せり。コークスの供給も充分ならず石炭も全然不足し、客車は甚しく減少し、貨車に至つては殆ど發見するを得ず」と。

一九一九年上半年に於ける銑鐵の生産高は僅かに壹百萬九千噸に達せしのみにて其内アルサス、ローレンの生産高

は四拾五萬七百噸即ち四割五歩、北部及び東部の生産高拾四萬四千噸即ち壹割四歩なり、此の生産率は一九一八年に比するも劣れり。同期間に於ける鋼鐵に就きて見るに總生産高壹百萬四千五百噸に達せるのみ而してアルサス、ローレンの之に貢献せる事參拾貳萬貳千噸即ち參割貳歩、中央部は貳拾八萬參千噸即ち二割八歩を貢献せり。

(3) 北米合衆國

北米合衆國は大戦以前より世界に於ける鐵及び鋼鐵生産國の首位を占めたり、即ち一八九〇年既に大英國の七百九十萬五千噸に對して、九百二十萬三千噸の銑鐵を産して之を凌駕せり、而して一九一三年に及んでは年額三千九十六萬六千噸の銑鐵と三千百三十萬一千噸の鋼鐵、インゴット及び鑄鐵を産出するに至りぬ、然れども此莫大なる生産高の大部分は之を國內にて消費し一九一三年に於ける鐵、鋼鐵及び之等の製造品の輸出總額僅かに二百七十四萬六千噸に達せるのみにして銑鐵は其中二十七萬八千噸に過ぎざりき、スチュアート氏の言を引用せば「戦争の突發に際して鐵及び鋼鐵業は一九一四年の工業界の不景氣を誘致せるものなり」と而して事實は此言を證明し同年に於ける銑鐵の生産高は二千三百三十三萬二千噸に減退し鋼鐵亦二千三百五十一萬三千噸となり鐵及鋼鐵の輸出高一百五十四萬九千噸に減退せり、宣戰布告の當初に於ては再び盛況の迅速に廻り來るべきを豫想せり、何となれば従前交戰國より供給

せられたる市場に對し米國は獨占的に供給し得べかりしを以てなり、然れとも船舶の不足と經濟狀態の錯亂とは此期待を裏切り暫くの間は不況格段に加はりたり、一九一五年八月に至り漸く恢復して銑鐵の毎月生産高一九一三年度初期に等しくなり價格亦戦前の程度に騰貴せり、但此盛況は中立國市場よりの注文に基因せるにはあらずして却つて交戰國より軍需品及び之が材料品の注文を受けたるが爲なり、即ち一九一五年六月三十日以前の一年間に於ける交戰國への輸出は其前年度に比し殆ど五十萬噸の増加を爲し中立國への輸出減少を補ひて尙餘りあり、其後交戰國並びに中立國への輸出は急速に増加し一九一七年より一八年に亘り米國が自國の戦争計畫に對し鋼鐵の需要を一層感ずるに至るまで持續せり、但し此處に注意すべきは同期間に於て削減せられしは交戰國への輸出にして中立國に對する輸出は減退せざりしの一事實なり。

一九一三年より一八年に至る北米合衆國より鐵及び鋼鐵の輸出額

各月 前日 の壹 ヶ年間	噸 數		價 格(單位弗)	
	交戰國	中立國	交戰國	中立國
一九一三年	110,000	1,267,000	120,000	7,667,000
一九一四年	100,000	1,267,000	120,000	7,667,000
一九一五年	100,000	1,267,000	120,000	7,667,000
一九一六年	100,000	1,267,000	120,000	7,667,000
一九一七年	100,000	1,267,000	120,000	7,667,000
一九一八年	100,000	1,267,000	120,000	7,667,000
合計	600,000	6,335,000	720,000	30,335,000

聯合國により注文せられたる砲彈用鋼鐵、砲彈、大砲、

機械、器具、パードフイヤ等に對する莫大なる契約は同時に國內の需要をも増加せしめたり、何となれば鋼鐵は新らしき製造工場の建設にも必要なるを以て鋼鐵製造者は自己の工場擴張のために自らも鋼鐵を要するに至れり、一九一六年の生産は一九一四年度の生産を超過せること銑鐵に於て七割、鋼鐵に於て八割に及びり而して是等の増加せる産出は直接或は間接に戦争材料の生産に使用せられたり、此新に増加せる生産が戦時注文に集中せられたるのみならず現存せし諸種の工場設備も之を變更して戦時注文の引受けに當らしめたるもの多く例へばレー工場を改造して砲彈用鋼鐵棒の製造に適合せしめたるが如し、茲に再びスチユワード氏の言を引用せんに「鋼鐵に對する需要は甚しく急迫して産出高の増加せるにも係はらず價格は前例になき率を以て増加したり、鋼鐵は銑鐵に比し其生産に於ても價格に於ても遙に迅速なる率を以て増加せり、一九一六年八月即ち戦争開始以後二箇年度に於て銑鐵の市價は參割八歩騰貴し鋼鐵ビレットは拾參割騰貴したり、價格の騰貴は其

生産を維持するに充分なりしのみならず、製造者を驅つて増加せる建造費をも意とせず鋼鐵に對する戦時の需要は永續するものにあらざるを知り乍らも猶且つ争ふて其生産能力を増加せしむるに至れり、是等の價格より生ずる利益の中より各工業は迅速に償却金を支給し而も莫大なる利得を爲し得たり」と一九一七年四月合衆國が戦争に参加せる際は各鋼鐵工場は注文を以て壓倒せられ居りたれば其上新規の需要加はるに及んで價格の更に騰貴せるは當然なり、一例を挙げれば同年五月より七月迄の間に鋼鐵板の市價は實に拾割の増加を爲せり。茲に於てか英國に於けると同じく之が唯一の對應策たる價格管理を唱ふるものあるに至れり、政府は同年七月鐵及び鋼鐵の生産者と協議を爲し九月に至り最初の最高價格表發布せられたり。左表は合衆國戦時工業局より發刊せられたる報告書第參拾參號より引用せるものなるが戦時中に於ける價格の變遷を示せり、之に就きて見るに一九一七年七月より九月迄の間に於て價格は甚しく低下せり。

一九一三年より一七年に至る北米合衆國に於ける鐵、鋼其他生産物の一九一三年七月一日より
一九一四年六月三十日に至る平均價格を基本とせる卸賣値段及物價指數

一單位の價格

基本價格

物	價 指 數									
	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一七年	一九一七年	一九一七年	一九一七年	一九一七年
均	六三〇	平	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一七年	一九一七年	一九一七年
			一月	四月	六月	七月	八月	九月	十月	

鐵

鐵

メサビノンベセマー五・五〇％
メサビベセマー五五％

グロツス英噸 費
100 103 91 85 111 115 115 115 115 115

同

100 103 91 85 109 107 107 107 107 107

コークス	コンネルビルファーンレス	シヨート噸	ニ〇・六三五	一〇〇	一一八	八八	八七	一七〇	七六	三八四	五九四	四八五	五七〇	二九一
鉄	ペーシツク	グロツス噸	一三・三八三	一〇〇	一一〇	九七	一〇三	一四八	二三〇	三三三	五九四	三八四	三三一	三三八
	ペセマー	同	一五・六八五	一〇〇	一〇九	九五	一〇一	一五二	二三三	三〇一	六六六	三四八	三〇六	三三七
鋼	屑ヘビーマルテイング	同	一一・九五〇	一〇〇	一〇九	九六	一一一	一五四	一九五	二七三	三三四	二八五	二八五	二四六
鋼	片鋼鐵平爐	同	二・七九七	一〇〇	一二七	九二	一〇六	二〇七	三〇一	三九五	四三六	三八五	三三一	二五三
型	鋼建築用鋼材	封度	〇・〇四六	一〇〇	一一〇	九〇	一〇一	一九四	二四五	三七	四三四	四三四	三五五	二〇五
鋼	板タソク	ハンドレッドウエイト	一・二六〇〇	一〇〇	一二二	九〇	一〇三	三三四	三〇九	四二六	七二四	七二	五〇〇	二五八
レ	ル鋼鐵標準平爐	グロツス噸	三・一四六七	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇三	一一一	一一三	一三三	一三三	一一三	一一三	一一三
薄	鋼板	工機渡ハンドレッドウエイト	二・九八五八	一〇〇	一一〇	九六	一二九	二六三	三二六	三九二	三五一	三四六	三六	二九八
鉄	力	ドメスチツクマールク	一〇〇封度入一箱	一〇〇	一一三	九八	九四	一四九	二〇八	二三七	三四九	三四九	三四九	三四九
	巾一四吋長二〇吋	グロツストーン	三・四七七五	一〇〇	一〇八	九七	一〇八	二二二	二六	三三四	三六六	三五七	三五七	二九四
	ワイヤーロツド	ベセマー	三・三〇七五	一〇〇	一〇八	九七	一〇八	二二二	二六	三三四	三六六	三五七	三五七	二九四

右表により最高價格制定せられたる爲多くの生産品の市價が合衆國の參戰以前に比し其標準以下に居据れるを見るべし、而して價格を制定するに當り之に伴ふ種々の弊害例へば生産の減退或は生産者が賃銀を減じて其利益を償ふ等の起る可きを考へ之に對し豫め備ふるの必要ありたり、然れども生産者は是等の點に關し適當なる保證を爲すに至れり、一九一七年には實際に於て銑鐵の生産減少せしが之れ冬期に於ける運輸の困難より引いて鑛石及コークスの運搬阻害せられたるに依るものにして其不足高も屑鐵利用の増加のため優に之れを償ひ得以て鋼鐵の生産は事實上一九一六年の四千貳百七拾七萬四千噸より一九一七年四千五百六萬壹千噸に増加せり。

最高價格制定の必然の歸結は政府により鋼鐵の割當なり
されば英國に於けると同じく優先證制度採用せられ之れに
依て鋼鐵供給長官は戰時工業局の代理人として優先證表に
準じて鋼鐵の供給を割當て斯くて鋼鐵は戰爭の目的に關係
する重要程度の如何により各工業に割當てられたり、此間
の消息を總括してスチュアート氏は曰く「一九一七年中頃
の形勢に對しては價格の制定は他の何れの方法よりも賢き
方法にして當時の市價を拂ひ過剩利得税によりて其餘分の
利益を國庫に拂戻さしむるの法に比し一層直接にして且つ
節約的なりき、又之を管理上より見るも簡單にして鋼鐵工
場を徵發するよりは政府の一般政策に適合せるものなり、
此政策の効果として價格を可成に低下せしめ且つ之を統一

して市場の變動を防ぎ得たり、如斯此管理は大なる効果を收めたるより見れば寧ろ其實施の遅かりしを惜むべきなりと。

然れどもこれを一方より觀察する時は抑生産者をして其製造力を増加すべく誘致せるものは價格騰貴の豫想なりしを認めざるを得ず、而して一九一八年に於ては銑鐵の産額は一九一三年の産額を超過せること八百八萬九千噸即ち貳割六歩にして鋼鐵も亦壹千參百拾六萬壹千噸、割合に於て

一九一三年、一九一八年、一九一九年に於ける英、米、佛、獨各國の鐵及鋼の生産高及輸出高

四割貳歩を超過せり戰時中に於ける合衆國の鐵及び鋼鐵の生産高は左の如し。

年次	銑鐵	鋼鐵インゴット及び鑄鋼
一九一三年	三〇、九六六、〇〇〇	三三、三〇一、〇〇〇
一九一四年	二九、三三二、〇〇〇	三三、五一三、〇〇〇
一九一五年	二九、九一六、〇〇〇	三二、一五一、〇〇〇
一九一六年	二九、四三五、〇〇〇	四二、七七四、〇〇〇
一九一七年	三八、六二一、〇〇〇	四五、〇六一、〇〇〇
一九一八年	三九、〇五五、〇〇〇	四四、四六二、〇〇〇

鐵及鋼の生産高

銑鐵 一九一三年 一九一八年

一九一九年 一月—三月 四月—六月 七月—九月 十月—十二月

合計

英 國 一〇、二二〇、〇〇〇
北米合衆國 三〇、九六六、〇〇〇
獨逸 一三、七七一、〇〇〇
ローレン 三、八〇九、〇〇〇
ルクセンブルグ 二、五〇八、〇〇〇
佛蘭西 一、二六六、〇〇〇

一九一八年 九、〇八六、〇〇〇
三、〇五〇、〇〇〇
九、〇八一、〇〇〇
一、四七一、五〇〇
一、四四一、〇〇〇
一、二六六、〇〇〇

一九一九年 一月—三月 四月—六月 七月—九月 十月—十二月
一、七三三、〇〇〇 一、九七六、〇〇〇 一、七三三、〇〇〇 一、七〇一、〇〇〇
九、三三六、〇〇〇 六、七〇一、〇〇〇 七、六六〇、〇〇〇 六、八八九、〇〇〇
一、五二六、〇〇〇 一、四四一、〇〇〇 一、五二六、〇〇〇 ?
四、二二六、〇〇〇 四、二二六、〇〇〇 四、二二六、〇〇〇 ?
二、七六八、〇〇〇 二、七六八、〇〇〇 二、七六八、〇〇〇 ?
一、二六六、〇〇〇 一、二六六、〇〇〇 一、二六六、〇〇〇 ?

合計 七、七三三、〇〇〇
三〇、五八六、〇〇〇
?
?
?
?

英 國 七、六四四、〇〇〇
北米合衆國 三三、三〇一、〇〇〇
獨逸 一三、七七一、〇〇〇
ローレン 三、八〇九、〇〇〇
ルクセンブルグ 二、五〇八、〇〇〇
佛蘭西 一、二六六、〇〇〇

一九一八年 九、〇八六、〇〇〇
三、〇五〇、〇〇〇
九、〇八一、〇〇〇
一、四七一、五〇〇
一、四四一、〇〇〇
一、二六六、〇〇〇

一九一九年 一月—三月 四月—六月 七月—九月 十月—十二月
一、七三三、〇〇〇 一、九七六、〇〇〇 一、七三三、〇〇〇 一、七〇一、〇〇〇
九、三三六、〇〇〇 六、七〇一、〇〇〇 七、六六〇、〇〇〇 六、八八九、〇〇〇
一、五二六、〇〇〇 一、四四一、〇〇〇 一、五二六、〇〇〇 ?
四、二二六、〇〇〇 四、二二六、〇〇〇 四、二二六、〇〇〇 ?
二、七六八、〇〇〇 二、七六八、〇〇〇 二、七六八、〇〇〇 ?
一、二六六、〇〇〇 一、二六六、〇〇〇 一、二六六、〇〇〇 ?

合計 七、七三三、〇〇〇
三〇、五八六、〇〇〇
?
?
?
?

英 國 七、六四四、〇〇〇
北米合衆國 三三、三〇一、〇〇〇
獨逸 一三、七七一、〇〇〇
ローレン 三、八〇九、〇〇〇
ルクセンブルグ 二、五〇八、〇〇〇
佛蘭西 一、二六六、〇〇〇

一九一八年 九、〇八六、〇〇〇
三、〇五〇、〇〇〇
九、〇八一、〇〇〇
一、四七一、五〇〇
一、四四一、〇〇〇
一、二六六、〇〇〇

一九一九年 一月—三月 四月—六月 七月—九月 十月—十二月
一、七三三、〇〇〇 一、九七六、〇〇〇 一、七三三、〇〇〇 一、七〇一、〇〇〇
九、三三六、〇〇〇 六、七〇一、〇〇〇 七、六六〇、〇〇〇 六、八八九、〇〇〇
一、五二六、〇〇〇 一、四四一、〇〇〇 一、五二六、〇〇〇 ?
四、二二六、〇〇〇 四、二二六、〇〇〇 四、二二六、〇〇〇 ?
二、七六八、〇〇〇 二、七六八、〇〇〇 二、七六八、〇〇〇 ?
一、二六六、〇〇〇 一、二六六、〇〇〇 一、二六六、〇〇〇 ?

合計 七、七三三、〇〇〇
三〇、五八六、〇〇〇
?
?
?
?

備考 *スクラップを含む。十壹月より拾月迄。十拾壹月。

右表中の噸數と雖も決して鋼鐵製造工場の全能力を現はせるものには非ずして亞米利加鐵及び鋼鐵協會 (American Iron & Steel Institute) の發表する處によれば一九一八年末に於ける總製造力は五千四百四十八萬三千噸なりしといふ。上述せるところにより吾人は北米合衆國が戰時中聯合國並に中立國に對し莫大なる輸出貿易を築き上げたるを見たり、されば今後鐵及び鋼鐵に關する米國の競争は實に驚畏すべきものなるは疑を入れず。

(4) 結 論

前頁に掲げたる表は一九一三年及び一九一八年並に據るべきものある限り一九一九年に於ける主なる鋼鐵生産國の鐵及び鋼鐵の生産高と輸出高とを示せり。

戰爭に因る荒廢を修理するためと過去五ヶ年間は破壊的目的以外には鋼鐵を得る事の困難なりし境遇より脱せんため全世界を舉げて鋼鐵を渴望するの時に際し乍ら一九一九年の鐵及び鋼鐵の生産は一九一八年に比し尠きは寧ろ異とすべし、此現象は獨逸及び佛蘭西に於て見る可きのみならず大英國及合衆國に於ても亦然り。(英國にありては一九一八年に比し銑鐵の産額壹百六拾八萬八千噸減少し、鋼鐵は壹百六拾四萬五千噸減ぜり、合衆國に於ては其減産高銑鐵八百參拾六萬五千噸、鋼鐵壹千五拾萬噸なりき)

假令戰後の需要は一九一九年半に至るまでは著しく現れず現時にありても尙或種の製品例へばレール、車輪其他に對する需要は顯著ならずと雖も而も供給を超過せること甚しき需要に對し充分に應ずることを得ざりしは主として外界的理由に基因するものなり、之を英國に於ける生産の減退に就きて見るに其主なる理由は左の如し。

(イ) 戰時の生産が平和的の生産に變更すること。(戰時中にありては同種製品に連續的に從事せる工場が今は多くの場合に於て種々雜多なる製品の製造を爲し居ると)
(ロ) 一九一九年の初に於て八時間労働制を採用せると。
(ハ) 石炭及びコークスの不足屢なりしこと。
(ニ) 運輸機關の亂れたるため屢工場を閉鎖するの已むなきに至りしこと。

(ホ) 同年十月に於ける鐵道従業員の同盟罷業の爲め。
(ヘ) サウスウエールズに於ける同盟罷業の長引きたること。

(ト) スコットランドに於ける爐用煉瓦職工の同盟罷業の爲め。

米國に於ける生産減退に於ける理由は勿論彼の大同盟罷業の爲なるべく同年參月頃迄の生産が前年の率に比し劣らざりしを見ても明なり然れども是等の生産減退は一時的の

困難に過ぎず早晩大陸諸邦の生産も挽回すべく米國亦輸出の餘力を生ずるに至るべきが唯如何に迅速に此恢復を見るかは確言するを得ず、但し佛蘭西及び獨逸が尙ほ數年の間は何等注目すべき競争を爲し得ざるは豫想し得べし表面上は獨逸の生産能力が佛蘭西に移されたりとは云へ佛蘭西は決して戰前に於ける獨逸の如く恐しき競争者たり能はざるべし、されど米國が内地の需要を充して猶輸出の餘力を生ずる時は外國市場に於て何れの國が勝利者たるかの問題は英國製品が其質に於て米國品に優るの點を度外視せば要するに價格の問題となるべきのみ、知らず米國は多くの觀察者が疑問とする如く勞力供給困難のためより輸出の餘力を生じ得ざるや否や、原價は米國にありても同じく騰貴しつゝあれども尙ほ之れを英國に比すれば遙かに廉く唯現在に於て英國市場は爲替の狀態と運賃とに依りて保護せらるゝものと云ふべし。

之れに因りて見るに英國製造家にとりての重大問題は主に原價の低下を計るに在るべく保護政策に出づるの儀もあれども之政治上の問題なるが故に自ら異れり而して原價低減の第一歩は燃料の節約にあり、燃料が鋼鐵の原價に及ぼす影響は甚大なるものあるを以て之が爲には必然コークス用石炭の貯藏を計らざるべからず、善良なるコークス用石炭は實に英國資産の一にして之が鐵及び鋼鐵業に於ける需要と佛蘭西及伊太利の之を要することの切なるとに鑑み更

に大量のコークス用石炭を冶金用コークスとして蓄へ置くを要す英國をして鐵及び鋼鐵業に於ける海外の競争に對峙せしむべき他の方法は一九一七年初め報告せられたる商務院の鐵及び鋼鐵業委員の報告中に載せられたるが其要點は左の如し。

(一)鐵鑛の使用者及び本業に利害關係を有し其業務執行に缺くべからざる人々より成る一機關を組織し外國鑛石の輸入及び國內の分配を掌り且つ海外に於ける鑛石の利權獲得を企つると尙ほ斯る機關は必要ある時は政府より經濟上の補助を受くべきこと。

(二)英國製造者間に性質上協同なる一機關を組織し適當なる鑛石に對する充分の供給を得ることを心掛くべきこと、而して結局は此機關が大なる鑛石の貯藏を有し絶對的に之れを管理し以て英國製造家に連續して間斷なく材料の供給をなすこと、更に經驗ある技師をして大英國に於ける未開發の鑛山を調査せしむること。

(三)英國の鐵及び鋼鐵製品を最有效に且つ經濟的に市場に出すの目的を以て國家的販賣機關を組織すること、此機關は其中心たるべき團體と現存せる組合に依り管理せらるゝ各製品を夫々取扱ふべき分課とより組織せらるべきこと。

(四)英國の鐵及び鋼鐵製造業者を鞭撻して之を聯合せしめ現在の要求に對し廉價なる生産を爲すため規模廣大

にして設計宜敷きを得たる新設備を設けしむること、而して是等の新工場を建設して之を操業するため設立せられたる會社は政府より 濟上の補助を受くべきと、殊に現今の如く大工場の設立には莫大なる費用を要するの時に於て然りとす、但し今日の騰貴せる物價は主として戰時狀態により人爲的に價格を吊上げたるが爲なれば價格の底減を見る時は資本の價值も亦甚しく減ぜらるべきは必せり。

(五)此計畫に基き工業の擴張を爲すには當然材料品及び勞力の需要増加を來すべければ現存せる資源を周到なる注意を以て蓄積して初めて之に應ずるを得べし、疑も無く需要増加の結果は自然從來に比し一層多量のコークス用石炭を國內用に當つべき事となるべきも尙ほ鐵及び鋼鐵業者とコークス用石炭の所有者との密接なる關係を結ばしめ以て自然の開発を一層増進せしむるを得策なりとす。(完)

◎船鐵交換船成績

戰時中米國が鐵の輸出禁止を斷行したる際、遞信省は民間當業者と米國當局との間に斡旋し所謂船鐵交換契約成立し米國より所要鐵材二十五萬八百噸を得、之に對し我よりは貨物船四十五隻、重量噸三十七萬三千八百噸を提供することとなりたるが是れ我が造船業の聲價を海外に高むる機

會なりとし、遞信省にては特に當業者に對し慎重なる注意を爲し優良船を建造して引渡を爲す可き警告を發し、關係海事官廳に對しても十分懇切なる監督を促したりしが、過般ゼノア海員労働會に出席したる山本登録課長に命じ歸途米國船舶院長ベンソン氏を訪問せしめ提供船の成績を質したるに。同院より一通の覺書交附されたり、之に依れば何分急速の際なれば各船に付細説なきも概して一般に成績非常に優良にして好評噴々たりと云へり。

◎鋼の焼入講習會

東京府では今回文部省の委嘱により明年一月七日から十日迄東京府立工藝學校に於て『鋼の焼入』に關する講習會を開催する。講習員は一般工業に従事する職工にして直接鋼の鍛鍊焼入作業に従事する者と尋常小學校卒業以上の學力を有する者で講義と實習とを兼習する正員百六十人、講義のみ聴講する者二百四十人を定員とし、毎日午前九時より十一時迄を講義とし、午後一時より五時迄を實習とする。講師は東北大學理學部教授理學博士本多光太郎氏で、講習費は正員四圓、聴講員二圓、本月十五日迄に東京府産業部商工課に願出る事になつて居る。